

創薬科学専攻（博士後期課程）の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）について

1. 学位授与の方針【ディプロマ・ポリシー】

創薬科学専攻（博士後期課程）において学んだ学生は、修了（学位の授与）時には以下の目標に到達することが期待される。

| 1 | 知識・理解

薬の研究開発の知識を習得している。

化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学および医療系薬学の情報を理解し、論理的に思考できる能力を持っている。

論文投稿のノウハウを理解している。

融合型の研究を実施するために必要な知識を持ち、また計画・立案することができる。

| 2 | 専門的な技能

科学的思考力に基づき、柔軟に研究を遂行する能力と問題を解決する能力を持っている。

独立心に富み、高い研究推進能力を持っている。

創薬科学の立場から、臨床薬学領域の研究理論および技術を習得している。

| 3 | 汎用的な技能

社会の要望に応える研究を実施するための課題の設定および解決するための実践型の研究を実施できる。

専門分野以外の異なった研究分野の理論、技術および発想を取り入れた実験を実施できる。

プレゼンテーション能力および討論力を持っている。

専門分野以外の研究分野の理論、技術、発想を取り入れ独自性の高い研究を実施できる。

国際的に活躍できる能力を持っている。

| 4 | 態度・志向性

自ら主体的に研究を遂行できる研究能力を持っている。

医薬品開発研究者としての深い感性や高い倫理観を持っている。

共同研究に参画できる技能・態度を持っている。

2. 教育課程の編成・実施について基本方針【カリキュラム・ポリシー】

学生が上記の目標（ディプロマ・ポリシー）に到達するため、以下のようなカリキュラムを編成する。

【カリキュラムの基本構造】

高い研究能力を養成するため、複数指導教員の指導のもと独自のテーマについて研究を推進し、科学的思考力に基づく研究遂行能力と問題解決能力を育成する。

複数の教員による指導体制を通じた研究指導を実施し、研究課題をさまざまな観点から取り組む能力を育成する。さらに海外から招聘した教員と共同して、国際的な競争力を持つ研究者となるための教育および研究を実施する。

最先端の創薬研究の現場における学びの場を提供するため、各種の研究プロジェクトや「システム創薬リサーチコアプログラム」への参加を奨励する。

研究成果を社会に発信するための発表を奨励する。

3. 入学者受け入れの方針【アドミッション・ポリシー】

| 1 | 求める学生像（知識、能力、適性等）

国際的に活躍できる学生の育成を目指しているため、幅広い知識を持つのみならず、課題を設定し解決する能力、他分野の研究者と協力して新たな領域を開拓できる能力などを習得できる素地を持つ学生を望む。

薬を創るという強い使命感のある学生の入学を期待する。

国際的に活躍できる人材養成を目指しているため、英語の十分な能力を持つ学生の入学を期待する。

| 2 | 入学者選抜の基本方針(入学要件、選抜方式、選抜基準等)

【入試（一般選抜・社会人特別選抜）】

受験資格として基本的に小学校入学から大学院修士課程修了までの18年の修学期間が必要とされる。その要件を満たさない場合は事前審査が必要で、審査により出願が認められる場合もある。創薬にかかわる研究を修得するために必要な専門知識および国際化に対応できる英語能力を持つ学生を選抜する。選抜は、一般選抜・社会人特別選抜からなり、英語、専門試験、面接の結果を総合的に評価する。